
感謝の詩

馬路キレ子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

感謝の詩

【著者名】

Z2811E

馬路キレナ

【あらすじ】

忙しさに感ける内、失つてしまつた感謝の言葉。
育てくれた両親への思いが、都会に埋もれる私を駆り立てる。

帰ろう帰ろう
私の故郷へ

帰ろう帰ろう
両親の元へ

忙しそぎる都会の毎日に追われて、

遠くに忘れた感謝の気持ちを伝えよう。

大した金も持たずに家を飛び出してから、かれこれ十五年。
初めて社会の厳しさを教わってから、仕事にあくせくすること十五
年。

もう帰つてくるなど音信不通になつた両親の遠い親族から、久々の
便りがあった。

両親が…という言葉以外は、電話口からまるで聞こえなかつた。
電話を受け取つた次の日から、私は人三倍仕事をこなして、
勤続以来、真面目を突き通した上司に、初めてつきたくもない無い
嘘をつき、
有給休暇をふんだくつて、私は駆け出した。

結婚もせず、三十路も過ぎて心も体もくたびれて、
何一つ親孝行できなかつた私が、

育ての親に、やつと感謝の言葉を言える時が來た

帰ろう帰ろう

私の故郷へ

帰ろう帰ろう

両親の元へ

だけど私が会った両親は、一人とも小さな箱の中に居た。石の部屋の中で、枯れた花束に囲われて悲しげだった。冷たく彫られた名前と、白灰と線香の匂いだけが、肩を落とす私を迎えた。

私は、両親の眠る石の部屋の前で泣いた。

くたびれた顔を更にくしゃくしゃにしながら、何度も何度も泣いた。私は、線香を上げて花屋で買つた一番上等の花で石の部屋を飾つた。しかし、どんなことをしても、後悔が私の心を苛む。誰でもいい、出来るなら、数秒でもいい、石の部屋に閉じ込められた両親を生き返らせて欲しい両親が聞こえる耳で、私のありがとうを伝えたい。

雨が降り出した。

私は、傘も差さずに寺を後にしようとした。
すると寺の住職が一本の傘を持って、こちらに駆け寄ってきた。
そして…私にこう言つた。

「もしあなたが来たらと頼まれていたのですが

「？」

「あなたの『』両親の手紙を預かってます。これです、ビリビリ

住職は雨と涙でくしゃくしゃになつた私の顔を覗くと、傘と封筒に入った一枚の手紙を差し出して境内へと帰つていった。

私は、帰りの電車に乗りながら手紙を開いた。

そこに書いてあつた文字は、蚯蚓がのたくつたように汚く、

私の記憶にかすかに残る、生きていた頃の両親の字だつた。

『元気でいますか。家が貧しくて何かしてあげることも出来ませんでしたが、お前は少なくとも、老いてゆく私たちの生き甲斐でした。お葬式に呼ばなくてすいません。きっとお前は孝行者だから、私たち一人が死んだら何を放り出しても来てしまつでしょう。だから親族たちにも、私たちが死んでからお前を呼ぶように頼んだのです。悪く思わないでください。お前は悲しんではいけません。今すぐにでも記憶から私たちの事を消しなさい。そして都会で成功して、幸せになりなさい。それが私たちの最後の願いです。ありがとう、さよなら』

私は、優しすぎる両親を憎んだ。
何を言いたかったのかは十分理解できるが、
生きている内に私のありがとうを受け取つて欲しかった。
だが、私の目には、すっかり涙が溜まつっていた。
そして思わず、呟いた。

「お父さん…お母さん…ありがとうございます…」

人目もばからず私は泣いた。
涙に暮れる車窓の先には、都会のネオンが見えていた。

帰ろう帰ろう、私の故郷へ…
帰ろう帰ろう、両親の願いを叶えに…

(後書き)

母の日用に書いてたネタのため
ちょっと時期ズレしてるし、読みにくくてすいません。

まあ『孝行したい時に親はなし』なんて言葉がありますが、出来る
時にやつとけつてことなんでしょうね。
やっぱり親子というのは、兄弟や親友や恋人と同じくらい、特別な
距離なんだなと思います。

子は親を慕い、親は子を思うつてのは普通の事なんですが、近年の
ニュース見る限り、難しいんですかね？最近は。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2811e/>

感謝の詩

2010年11月16日18時44分発行